

杉並区立松溪中学校・西田小学校合同学校運営協議会 第7回議事録

- 1 開催日時 令和4年12月19日(月) 16:00~17:45
- 2 開催場所 杉並区立松溪中学校 多目的室
- 3 出席委員 松溪中…石井良典、佐藤伸彦、飯島裕子、村木 由紀、菅野 雅子、
辻 成一郎校長
西田小…諏訪哲郎、山内玲香、中澤一郎、半澤豊子、鈴木朝代校長
(両校兼務)…檜枝光太郎、惠羅 博、望月航二郎、渡邊 麗、目黒由美
- 4 出席(学校) 小川隆一副校長(松溪中)、神近正浩副校長(西田小学校)
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容(次第)

【1】両校会長より

①今回は、西田小CSと松溪中CSの合同会議になります。この地域の小中一貫教育について、辻校長が準備してくれた資料をもとに意見交換をしていきたいと思えます。

②少子化が進み学校規模が小さくなっている地域の学校では小中一貫・連携が必要になっています。しかし、国は児童生徒数の減少のためだけでなく小中一貫・連携を進めています。これからの学校では、校種を超えた学びが大切だと言っています。教員以外の方が教育に関わっていくことが必要になっています。1か月ほど前に参加した区が開催した各CSの会長の勉強会の時には、学校が小と中に分かれている現実の中では、一貫や連携はなかなか進まないと考えていましたが、資料を見てみるといろいろと考えられているのが分かり、やっていかなければと思いました。

【2】両校学校長より

①合同のCS会議が実現できたことが素晴らしいと思えます。西田小は創立80周年を迎え、地域や保護者となぐことの大切さをあらためて実感しています。今年度の行事等を通して、卒業していった子どもがもっと小学校に関わって欲しいと思えました。西田小と松溪中は近くなので、もっといろいろとできるのではないかと考えています。

②これまで築き上げてきた小中一貫教育の全体計画に則って、指導計画や年間計画を作成し、実施しています。今年度も小中の先生方が年3回、分科会に分かれて協議して取り組んできました。取り組みの経過は、資料の小中連携通信「9年ひとつなぎ」にも記載しています。また、小中一貫教育について、本校区の課題もまとめてありますので、参考にさせていただきたいと思えます。

【3】学校の特徴ある取り組みの紹介

①西田小では、子どもが主体的にいろいろなことをやっていくことを大切に、教員はファシリテーターとなっているのが大きな特色です。創立80周年の記念誌も表紙や中身を子どもが考えて作りました。また、多くの保護者や地域の方が関わってくれています。「西田英語村」は子ども達が体育館の各ブースを回って英語しか話さない体験をさせてもらっています。ユネスコスクールに登録され、地域のSDGsを推進する活動に年間を通して取り組んでいます。今年度は、大人とちゃんと話し合えないとSDGsも進まないで、保護者・地域の方の協力を得て、子どもと大人が話し合う機会をつくってもらいました。今年度はユネスコスクールの最優秀賞を受賞しました。

②西田小でのSDGsの動きは、松溪中の中でも活かされています。これから入学してくる子どもやその保護者に

向けた学校説明会では、紹介動画を生徒主体でつくることができました。中学校でも生徒主体でどんどん動いて欲しいが、思うようにいかないこともあります。学校に来られない生徒もおり、どう救っていくかが悩みです。今年度は、とにかく学校に来てもらい、その中から自分の生き方を見つけて欲しいと考え、「個別対応教室」を設置しました。また、学校に来て良かったと思えるように「いのちの教育」を始めることができました。

【4】協議事項

(意見交換)

* 辻校長が準備した小中一貫教育の資料をもとに委員から意見が出されました。

①杉並区が進めている「小中一貫教育」は、小中の施設を一つの学校にまとめるのではなく、地域の実情で連携することを目指しています。通学区域が全て重ならない小中学校もあり、実際にやることは、各学校で地域と共に考えていくように求められています。

②区が実施している教育調査では、小中一貫の調査項目が低い結果となっていたが、資料の小中一貫の計画を見ることで、これまで実際に取り組みを進めていたことがわかりました。実際の活動は、各学校の先生がコーディネーターとなって推進しているとうかがったが、違った立場で見る視点も必要ではないか、第3者が入ったらどうかと思いました。

③コーディネーターという役割は色々であり、先生方が直接話し合わないと動かないことがあります。

④小中3校の先生方の勉強会等、教育課程とは別の枠組みを考えてみたらと思います。

⑤コーディネーターとなっている先生は、専任ではなく色々な役割があります。本当は専門の知識を持ったコーディネーターがいて、活動をサポートしてくれたら素晴らしいが、では誰がやれるかは課題になると思います。

⑥私達大人だけではなく、子どもなりに「小中一貫」をどう考えるかも大切だと思います。中学2・3年生なら考えさせることができると思います。

⑦児童生徒から見るという視点は大切だと思います。ただ、小中一貫をやった後の成果がなかなか伝わってこないことが課題だと思います。小中一貫をやったからこんな良いことがあった、と明らかにしないで進めていくことに疑問があります。やっただけ成果が出ていれば進めていくが、教員が多忙になり、大変ならやめても良いと思います。

⑧実際に小中一貫をやっている校長先生の話聞くことも良いと思います。一貫校の校長先生から成果や問題点も聞いてみたいと思いました。

⑨小中一貫は二つあると考えています。一つ目は西田小のSDGs のように松溪中に進学してきて伸ばして欲しい生き方を育てることだと思います。しかし、二つの小学校の子どもが入学してくるので、中学校では難しくなると思います。二つ目は、中一ギャップと呼ばれる学校の違いを小さくすることだと思います。これは一貫の前と後のプラス面を明らかにすることだと思います。

⑩小中一貫は、中学校が荒れたことから始まっています。今は(荒れていないので)、それだけでも成果があります。生活指導等、一貫しなければならないことや連携しなければならないことがたくさんありますが、どこまでやるかということは難しい状況があります。

⑪現在やっていることに無駄はないと思います。

⑫成績は出せるが、生徒指導やSDGs は成果を表しにくいと思います。

⑬10年ぐらい前までは暴力行為は中学校が多かったが、現在は減っています。中一ギャップの理解が進んだからだだと思います。今は小学校での暴力が増えているので、どう捉えるかが課題だと思います。いじめ発生のグラフや発達障害の出現のグラフもカーブがほとんど同じです。こういうことも考えていかなければと思います。

⑭西田小では、小学生と大人がそれぞれ発表する場を設けています。今年も年3回、大人と子どもの対話の場を設けており、子どもの成長が良いと感じています。小と中の交流も良いと思います。

⑮今の保護者は核家族世代がほとんどなので、色々な世代の交流があるのは良いと思います。松溪中で実施している赤ちゃんとのふれあひも、学校が中心となって機会をつくってくれたのが有難いです。高校受験はありますが、勉強でないことも大切だとコロナ禍で感じました。これも公立学校の良いところだと思います。

⑯中学生は、(卒業生なので)小学校に行きやすいですが、小学生は、なかなか中学校には入れないと思います。地域にふれあう場があると良いと思います。

⑰他地域に住んでいた時に良いと思ったことは、引き取り訓練を小中で一緒に同じ日に実施したことでした。松溪地区でも実施できたら良いと考えました。

⑱保護者から見ると、カリキュラムの一貫は見えないが、あそび市や地域での体験は見えるのでわかりやすいと思います。

⑲みなさんの目に見えて、わかる活動は大切だと思いました。

⑳定期的に各学校の管理職、コーディネーター、主幹教諭等で開催している「小中一貫教育推進協議会」にも参加したいと思いました。

㉑「小中一貫」の印象は、これまで学習面だけと受け止めていましたが、今回の辻校長からの話でそうでないことがよくわかりました。

㉒地域の方から、田端神社に置かせてもらっているお神輿と山車を活かしてもらえないかという話がありました。

㉓お神輿と山車は西田商店会が所有しているので、商店会が動かないとお祭りはできないと思います。小中連携を巻き込んでやりたいと思いました。

㉔地域からの声を受け止めて、実現することができれば良いと思います。

【5】 その他

7 次回予定

令和5年1月16日(月) 16:00～ 松溪中学校多目的室にて